

# セイメイファームの悪臭公害、早期解決を

共産党の川口浩史議員が6月議会での一般質問でセイメイファームの悪臭・騒音問題を質問しました。町は「2020(令和2)年9月にセイメイファームの悪臭と騒音について検査している。その結果は、三か所中一か所で規制値を超過。また騒音も一か所で規制値を超えていた」と、回答をしました。

町長は「さらに基準値内であっても周辺の方の感覚的なものもあり、さらにより良い環境になるようにお願いをしてゆく」「私自身も前に二段階でも二段階でも前進する状態がつかないか指示は出している」と答弁しました。

## 当事者が雇った

### 検査機関は

#### 信頼性に欠ける

町が要請した機関では一か所で規制値を超過していたことについて「セイメイファームが町とは違う検査機関に依頼し検査したら基準値内であった」と述べました。

検査は、たとえ国家資格を得た機関であっても、当事者であるセイメイファームがお金を出して依頼した検査機関は信頼性は薄く、中立の組織(人)がおこなってこそ信頼される検査ではないだろうと、町長は法令に基づき

## 命令もだせる

また川口議員はセイメイファームの悪臭・騒音問題で町長に解決に対する見解を求めたことに、法令に基づき対応すると、のべました。

この嵐山町の悪臭公害は50

年以上経過しているが解決に至っていない。

公害問題で町長は公害を出す企業に指導も勧告もできる立場です。そして指導や勧告をしても解決しない時は、町長は法令に基づき命令を出す事もできます。

しかし、歴代の嵐山町長は命令を出した事はありません。

## この問題の請願は

### 議会で採択されている

2019年3月1日、セイメイファームについての請願が、町議会文教厚生委員会で審査されました。

今まで定期的に町・住民・

企業と話し合いが持たれ、改善の方向にあったが、ここ数年改善も止まり、そのために請願が提出されました。

地元の方など多くの町民が見守るなか、地元杉山地区の請願者3名の訴えと議員からの質疑応答、町の担当課の説明を聞いてから審議となりました。

50年以上の長きにわたり苦しめられてきた請願者3名の切実な訴えが議員にも届き、賛成多数で採択され、本会議でも採択されました。

## セイメイファームは

### 社会的責任を果たせ

この問題は、セイメイファームが企業としての社会的責任が問われているのであり、悪臭や騒音、汚染のない生活を望むのは住民として当然の権利です。

## 六月議会で小中学校再編等審議会設置条例が採択

# 学校再編は白紙から議論

六月町議会で「嵐山町立小中学校再編等審議会設置条例」が賛成多数で可決されました。教育委員会が事務局になり、諮問は教育委員会と町長が出来るようになっていきます。

委員は公募も含め18人以下で今後、委員を選定してゆくとしていきます。

佐久間町長が一旦立ち止まるとしてストップしていた学校再編の必要性について協議されることになりました。

## 児童にとって良い

### 教育環境を

校舎の築年数は現時点で普小、七小、普中は40年以上経過、志賀小、玉中も30年以上経過しています。今ある建物は、耐震化や冷房設備、ICT設備を備えており、トイレなどの部分改修をすることで充分利用は可能です。

## 人口減・少子化は宿命的か

### 滑川町は人口増

児童生徒が最も多くいたのは、1981年(昭和56年)の2831人です。それが2035年には694人になるという見通しです。

嵐山町にとって人口減・少子化問題は重大な問題です。今年強化された子ども支援は、子育て世代(世帯)にとっても待っていた朗報です。

こうした支援強化に留まることなく、さらなる対策強化

解決もしていないのにこれ言うのは、住民に「我慢しろ」というのと同じです。

## 悪臭で苦しんでいる

### 嵐山町民がいる

企業が社会的責任を果たしてこそ、その企業の発展・飛躍の道が開かれるということも一日も早く解決しなければならぬ課題のほうです。

50年間も悪臭や騒音で苦しんでいる嵐山町民がいるという事実を、もっと真剣に受け止めるべきで、悪臭と共存はムリです。

## コロナ禍で見えた

### 少人数学級のよき

コロナ禍を経験し、段階的ですが35人学級が実施されることになり、今年2年生が35人学級になりました。

35人のクラスでも、狭い教室でソーシャルディスタンスを取るのには難しいのが現状です。20人学級などになれば、その心配をせずに授業が受けられます。

コロナ禍で、少人数学級のよさやメリットが明らかにされました。

## 子育てしやすい町で

### 人口増の町に

学校統廃合は、教育だけの問題ではありません。地域の在り方などにも関わります。

保護者・教育関係者・地域住民と十分に話し合うことはもちろんですが「子育てしやすい町」とは、どんな町かにあっても、十分な議論が必要ではないでしょうか。



## 命と五輪、どっち？

人が多く集まる場所のできる健康被害で憂慮されるもの一つは、感染症のまん延。世界的流行になっているコロナ。大会自体を中止すべきだ。開催すれば国家自体の危機管理が課題になってくる。▼これだけ医療の崩壊やコロナ治療の過酷さが叫ばれているときに大量の看護師を駆り集めればどうなるのか。ある医療関係者は「正気の沙汰とは思えない。逼迫(ひっ迫)している医療現場から見ればオリンピックはまさに不要不急のイベントだ。」

## もはや恐喝だ

東京都の4度目の緊急事態宣言に関連し西村康稔経済再生相「新型コロナウイルス対策の休業要請などに応じない飲食店に対し、金融機関から圧力をかけてもらう」と。融資を制限するという意味に違いない。もはや恐喝だ。

国税庁酒税課から酒類業中央団体連絡協議会に休業要請等に「応じない飲食店との酒類の取引停止についての要請文書を出している」とが発覚。充分に補償しないから、応じられない飲食店もあると思う、お酒を黙って飲むならば感染はしない。政府のコロナ対策は異常だ。

## 何だ、この臭い

嵐山インターを降りたドライブインが臭いがしたとSNSに投稿。それを読んだ人が私は、あの養鶏場からの臭いだと思った。人に迷惑をかけては駄目です。」と言っていた。

